

キルト縫い「希望の木」制作



入居者と職員が制作したキルトの「希望の木」
(京都市西京区、ライフ・イン京都)

西京の老人ホーム

京都市西京区の介護付き有料老人ホーム「ライフ・イン京都」の入居者や職員が、葉をかたどった布を一人一人がキルトに縫い付けた「希望の木」を制作した。新型コロナウイルス禍で入居者同士の交流も減っているが、共に暮らす人の温かみを感じる作品になった。

同ホームは、感染防止対策のため入居者に外出を控えてもらい、施設内のイベントも縮小、職員も入居者との接触を減らしている。大人数で集まらずに皆が参加できる取り組みとして職員が発案。2

カ月間かけて完成させた。

希望の木は1辺約2.5mの正方形。布で作った木の幹と枝を中央に配置している。葉は、入居者と職員が一人1枚ずつ、各自が自室で名前やメッセージ、動物のイラストなどを刺しゅうして作り、計約300枚を縫い付けた。

新型コロナウイルスの流行「第6波」でさらに厳しい感染防止対策が求められるだけに、ロビーに飾られた希望の木がつながりを感じる象徴になっている。入居者の山口三知子さん(81)は「コロナ禍による生活の制約に意気消沈していたが、みんなで一つのことに取り組みてうれしかった。見かけていなかった人の名前を葉に見つけ、元気なんだと安心した」と笑顔を見せていた。(鈴木雅人)

令和4年3月10日 京都新聞に

ライフ・イン京都の取材記事が掲載されました。

チベットで出会

々と自然、街並み

フワークとして描いてい

大作」あるロチベットで